

監査等委員 座談会



加藤 恵一

社外取締役
(監査等委員)

犬賀 昌人

取締役(常勤監査等委員)
監査等委員会 委員長

生川友佳子

社外取締役
(監査等委員)

グループの成長とガバナンス強化に貢献できるよう、
監査の実行性向上に取り組みます

2023年度を振り返って、ご感想をお聞かせください。

犬賀 監査等委員の役割は、取締役等の職務執行が適切に行われているかを監査・監督することです。私は2023年6月の就任以降、取締役会において付議される議案が法令や定款に違反していないか、会社の戦略は妥当なものであるかという点を注視して発言することを心掛けてきました。また、私は常勤監査等委員として社内の情報収集にも注力してきました。経営会議等への参加や、部門長、子会社の社長に対する定期的なヒアリングを通して、事業進捗やグループ内の課題確認を行い、その結果を加藤取締役と生川取締役に共有し意見交換を行いました。

生川 当社の取締役会の議題は多岐にわたりますが、そのなかで企業価値を高めるのはもちろんのこと、会計・税務の観点から意見を申しあげるのが私の果たすべき責務と考え、取締役会に臨んできました。当社の取締役会に参加して感じたのは、多様なバックグラウンドを持つ取締役で構成され、とてもバランスが取れているということです。一人ひとりの取締役が自身の専門分野の観点から意見するなど、活発な議論がなされているのが良いところだと感じています。私は、税理士としてキャリアを重ねるなかで得た知見とネットワークをグローリーの経営に役立てたいと考えております。昨年の就任以降、他社との交流の機会を設け、監査等における各種課題や当社でも積極的に取り組んでいる健康経営等について意見交換を行いました。

加藤 1年を振り返ると、監査等委員会、取締役会どちらも充実した議論ができたと感じています。また、生川取締役がおっしゃった他社との意見交換では、取り組み内容の共有を行うとともに、そこで得た知見を活かして監査を行うなど、これまでとは違った活動ができました。

監査等委員 座談会

近年、当社ではさまざまな戦略投資が実施されています。監査等委員として、どのように戦略投資の議論に臨まれましたか。また、取締役会での議論をどのように評価していますか。

犬賀 取締役会に付議された戦略投資議案は、いずれも当社グループの継続的な成長を図ろうとする内容でした。議案の担当部門は投資の実現に向けて強い思いを持って提案していますので、審議において私たちは一步引いて冷静に検討することを心掛けました。この戦略投資は当社グループの企業価値の向上に貢献するものであるか、買収金額は妥当であるかという観点から議案を確認するように意識しています。

加藤 戦略投資に関する議案は情報量が多いのですが、取締役会の事前説明があることで、理解を深めた状態で取締役会に臨むことができていると思います。買収や資本業務提携は、事業成長が事前の想定どおりに進まないこともありますので、私は良い情報だけでなく、不利益な情報もできるだけ多く聞くことを心掛けています。この点において、2023年度に行ったフルイド社買収の検討においては、リスクも含めて十分な情報が提示されており、適切な議論がなされたと思います。

生川 キャッシュレス化が進むなか、当社の経営陣は、ハードウェアによったビジネスだけでなく、ソフトウェアビジネス、リカーリングビジネスの拡大や、飲食市場の拡大が必要であることについて一致した考えを持っており、これらを実現するための一手としてさまざまな戦略が検討されています。もちろん事業成長の面から検討することも大切ですが、私はM&Aに関するコンサルティングを行っている立場から、付議された議案に審議に必要な情報が含まれているか、税務的観点から見て合理的なスキームであるかについても注視して発言することを心掛けています。最近では、以前に比べて付議内容が改善され、取締役会で議論を尽くすことができるようになってきました。

事業成長の礎として、今後どのようにガバナンスの強化に取り組まれるか、お考えをお聞かせください。

犬賀 ガバナンスの強化という点では、子会社を含めたグループガバナンスの強化が必要と感じています。2023年度は新紙幣発行に伴う需要増大の影響から、国内事業の売上が大きく伸びましたが、通常の売上規模では海外事業の売上が全体の半分以上を占めるようになってきており、監査の対象もおのずと海外事業に軸足を移していかねばなりません。海外子会社への往査を行うとともに、各地域の特性を踏まえた実効性のある監査を行っていききたいと思います。

加藤 コーポレート・ガバナンスの強化についてはさまざまな課題がありますが、私は、あえて当たり前の大切さに触れたいと思います。定められたルールや手続きに則って業務を行うこと、一つひとつの業務を確実に行うことがガバナンス強化の第一歩だと思いますので、監査等委員会は監査部と連携し、これらが正しく根付いているかを確認していききたいと思います。弁護士として、ハラスメントの撲滅にも注力しており、お互いを尊重し合う関係の構築も重要な要素と認識しています。

生川 犬賀取締役もおっしゃっていましたが、当社は国内だけでなく海外にも多くの子会社があります。M&Aにより、買収先企業の配下にある会社も当社グループに加わっていますので、これらの会社も含めて、どのような体制が適切であるかを事業戦略、ガバナンスの両面から検討し、実効性のある監査に向けて取り組んでいきたいと考えています。